宮城の「素敵」を紹介

Open Village ノキシタ®

仙台市宮城野区田子西1-12-4
022-352-3022



取材担当：伊藤

お店情報

弊社からほど近い場所にある「Open Village（オープンヴィレッジ）ノキシタ」さん。今回この場所をご紹介したいと思ったのは、ノキシタさんが目指す「誰もが支え合い、自分らしく暮らせる地域づくり」という地域貢献の姿勢に、深く共感しているからです。

東日本大震災後、「孤独感をつながりで解消したい」という想いから誕生して今年で7年目を迎えます。敷地内には築山を囲むように、会員制交流拠点「エンガワ」、カフェ、保育園、高齢者・障がい者サポート施設が集まり、まるで “小さなまち” のような温かな空間が広がっています。誰でも気軽に利用できる「エンガワ」は、地域の方々や障がいのある方が同じテーブルで談笑したり、木組みのジャングルジム（なんと本社の滑り台と同じくマイケルさん作！）やライブラリー、ギャラリーなどで思い思いに過ごしながら多世代が心地よく集える場所です。

そして、この素敵な空間の中でおいしい時間を過ごせるのが『ノキシタカフェ オリーブの小路』さん。弊社スタッフも大ファンのこちらのお店は、障がいをお持ちの方の就労継続支援B型の場でもあり、スタッフのみなさんが「地域とつながり、誰かの笑顔をつくりたい」という想いを胸に、得意な作業を分担しながら元気に働いていらっしゃいます。

NokisHITA CAFE OLIVE - KOMICHI

看板メニューは超本格ベジタブルスープカレー！ごろっと入った大きめ野菜とサクサクの揚げゴボウがのった絶品で、地元の女性に大人気です。店内は小上がりやバリアフリー設備も充実しており、どなたでも安心してくつろげます。建物同士を繋ぐ庇のように、人と地域をやさしく結んでいます。スタッフのみなさんの温かい笑顔と絶品カレーを味わいに、ぜひ足を運んでみてくださいね！







編集後記



編集長：加納

夏も終わりましたね･･･振り返れば今年は涼しい夏でした。9月は全国各地で大雨による被害が多発しました。一般的には50cm以上の水位で床上浸水になるそうですが、実は30cmの浸水でも車は壊れます。さてこの30cmをどうしたものか？と考えていたら、私ふと思いつきました。「大雨が心配なときは大きなビニールで包めばいいじゃん」と。早速検索してみたら、やっぱりもう売ってるんですね。特許でも取ろうかと思いましたが、遅かった･･･。ハザードマップで見ると我が家も七北田川が氾濫したら50cm以上来るようなので、Amazonだと1万円以下で売ってるものがあって、買おうかどうか悩み中です。ちなみに「家も業務用ラップでぐるぐる巻きにしたら守れるかもしれない！」と思い付き、調べてみたらこちらも既に「止らっぷ」という商品がありました。実用性はどうなのか、気になります。原稿を作りながら改めて火災保険の水災補償、確認しようと思いました！

さて、先月までにお話していた仙台リレーマラソンですが、目標人数には足りなかったものの、O様から「出た方が楽しいし、いっぱい走るから任せて！」という言葉に背中を押されて申し込みました。さてどうなるか、参加申し込みしてくれた方々、楽しみですね。追加参加希望の方いらっしゃればお声がけください。

感想等

感想、送付先情報の変更等は、QRコードのフォームにてお知らせください。

大東住宅 オーナーさま便り

今のお家をもっと好きになる社員手作りの情報誌

2026年10月号

〒983-0821　仙台市宮城野区岩切字三所南121-1
TEL 022-352-7477　info@daitojyutaku.co.jp

高橋の徒然日記 ～熊本の地震を通して改めて感じたこと～

代表の高橋です。

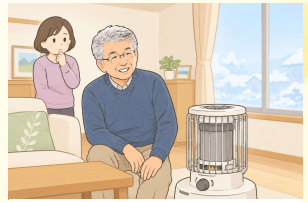
7/28(火)に熊本県で最大震度7の地震が発生しました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。思い起こせば、3.11（東日本大震災）の翌朝出社できた社員で手分けをし、通行止めの沿岸部を除いてオーナーさまのお宅を一軒一軒巡回しました。その時の出来事が「家族の命と暮らしをどんな時でも守れる家とは何か」を、より強く意識するきっかけとなりました。



＜改めて避難グッズ確認してみましょう＞

あの日はまだ寒く、余震も続いており、家の外や車の中で不安そうに過ごしているオーナーさまもいらっしゃいました。「ご家族は無事ですか？家に被害はありませんか？家具が倒れたり食器が割れたりしていませんか？」などとお声がけし、その範囲内では幸いにも倒壊などの大きな被害があったお宅はありませんでした。耐震にもこだわってきた住宅会社としてまずは胸を撫で下ろしました。

しかしその後、「寒い外や車の中よりご自宅の方が安心です。暖かいお家の中でお休みください」とお伝えしても、余震の怖さから家の中で過ごすことに不安を感じているオーナーさまが少なからずいらっしゃったのです。もちろん、建物が損傷していたり、津波や火災の危険があったりする地域では、速やかな避難が最優先です。しかしそれ以外の時に「家の中にいる方が安心だし快適だ」と思っていただけない限り、本当の意味での【家族の命と暮らしをどんな時でも守れる家】にはならない、そのためにも耐震への取り組みを更に進化させ、しっかりお伝えしなければ･･･と決意したことを、今でも鮮明に覚えています。



＜我が家では納戸から石油ストーブを出しましたが、室温が下がらず、結局使わずに済みました＞

また、地震は新築した直後に来るとは限りません。10年後、20年後、あるいは50年後かもしれません。その時にも、新築時と同じように家族の命と暮らしを守れる性能を維持できていなければ意味がありません。年月とともに湿気や内部結露、シロアリなどで柱や土台が傷むと、新築時の耐震性能を保つことは難しくなります。私たちが外断熱や二重通気を推奨している理由はまさにここにあります。

震災から年月が経つにつれ、あの日の記憶を日常の中で思い出す機会は少なくなっているかもしれません。しかし住宅会社として、あの日に感じたことを忘れてはいけないと思っています。弊社が掲げる「いつまでも強く、いつまでも快適に」という使命の中でも、特に【いつまでも】を大切にしているのは、こうした背景があるのです。



代表取締役 高橋一夫

営業コラム　～実家のこと、家族で話したことありますか？～


営業・千葉真弘


＜「いつか考えなきゃ」が、突然「今」に変わることもあります＞

「実家のこと、もし何かあったときに、どうしよう？」そう考えたことはあっても、ご両親が元気に暮らしているうちは、なかなか話題にしづらいものではないでしょうか。実家がすぐ近くにある我が家も事情は同じです。

私は普段、住宅営業だけでなく、不動産売買のお手伝いもしています。その中で、実家についてご相談をいただくことがあります。

以前、「親が亡くなり、実家が空き家になった。自分はすでに持家があるので、どうしたらいいだろう」とご相談をいただきました。「まずは実家の状態や土地について確認して、どんな選択肢があるのか一緒に考えてみましょう」ということで、現地を確認して査定を行い、実家の売却をお手伝いすることになりました。その後無事に買主様が見つかり、最終的には新しい住まいづくりまでお手伝いさせていただきました。

こうしたご相談を通して感じるのは、実家のことは「その時」が来て、初めて自分の問題になることが多いということです。だからといって、元気に暮らしている親御さんに「この家、将来どうする？」とは、なかなか切り出しにくいですよね。実家の問題には、家や土地だけでなく、相続や遺産分割、登記などが関係することもあり、ご家庭によって事情もさまざまです。今すぐ答えを出す必要はありません。ただ、「どんなことが関係するのか」「どんな選択肢があるのか」を知っておくことも、ひとつの準備だと思います。


＜今すぐ決めなくても、知っておくことが“備え”になります＞

現在、会社HPで「相続税の基礎知識」をテーマにしたコラム（QRコードからご覧いただけます）を連載しています。「そういえば、うちの実家は将来どうするんだろう？」そんなことが少し気になったら、まずはコラムをのぞいてみてください。突然やってくるかもしれない「その時」に慌てないために！

お悩み解決隊　～「空気の見張り番」として～


常務・清野光芳

秋はエアコンの出番が少なくなる季節ですが、この季節ならではのお話をします。実はエアコンは冬よりも夏に汚れます。だからこそ、今はエアコン掃除に最適な時期です。

お恥ずかしい話ですが、実は事務所のエアコンも以前から「カビ臭いなぁ」と思いながらも使っていましたが、この原稿作成を機に中を見てみたところ・・・、結果はご想像にお任せします💦 なぜ夏にカビが繁殖しやすいかというと、内部に冷却による結露水がつくからです。使用後は送風による乾燥機能がありますが、どうしても内部の奥の方は乾ききらず、カビが発生してしまいます。普段見えないところなので、どうしても目が行き届かないですよね。



せっかく外断熱の家で快適な空気の中で過ごしているのに、エアコンからカビが吹き出すと思うと、それはショックです。だからこそ数年に一度は内部をしっかり洗浄することをおすすめします。ただ、フィルター清掃以上の、本格的なカビ取り清掃（熱交換器の洗浄や分解掃除）は専門的な技術が必要です。安易にトライせず、必ず専門の業者にご相談ください。もちろん弊社でも承っております。

（※市販のカビ取りスプレーはあまりおすすめしていません）

お役立ちコラム　～火災保険、どこまで補償されますか？～


経理・伊東

最近の豪雨災害のニュースを見るたびに心が痛みます。テレビでの被害映像を見ていると、「ここのお宅、火災保険の水災補償は付いていたかな…？」「家財保険は大丈夫かな…？」「車両保険は入っていたかな…？」と心配になってしまいます。

意外と知られていないのですが、火災保険の「水災補償」を付けていれば、土砂崩れによる被害や、床上浸水・地盤面から45cmを超える浸水なども補償対象になります！ さらに「家財保険」もセットにしておけば、浸水で壊れてしまった家電や家具の買い替え・修理費用までカバーできるんです。万が一のときに全部買い直すとなるとかなりの出費になるので、備えがあると本当に安心ですよ。


＜何かあればできるだけ写真を残しましょう＞

ぜひこの機会に、ご自身の火災保険の内容（火災以外のトラブルも補償されるか、水災補償はちゃんと付いているか、家電や家具（家財）も対象になっているか）をパパッとチェックしてみてください！

弊社は「あいおいニッセイ同和損保」の代理店でもあり、たくさんのオーナーさまにご契約いただいています。最近は「うちの保険、水災も対象？」といったお問合せや、保険の更新時に「水害が増えているので新たに水災補償を付けたい」というご相談も増えています。心配な方は、できれば台風が来る前にぜひお気軽にご相談くださいね。大切な住まいと安心な暮らしをしっかり守っていきましょう！

岩切本社紹介　～無垢の木の遊具、マイケルさんとの出会い～

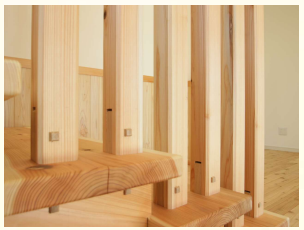

営業・加藤浩

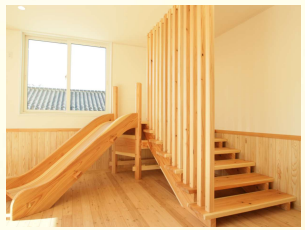
岩切の本社にいらしたことがある方はご存じかと思いますが、あの「木の滑り台」、今回はその誕生過程とその裏話をご紹介します。

本社を岩切に移転する際、新たなショールームを作るという話が出たときに、社員から「木に触れて遊べる遊具が欲しい」「既製品ではなく手作りの良さを伝えたい」「子供も大人もリラックスできる空間にしたい」という声が上がりました。県外までいくつかの施設を見学し、出た候補が「木の滑り台」でした。それも公園にあるような滑り台をただ木で作るということではなく、意味を持たせたい（山を体現したい）ということで様々な議論がありました。またどう作るかも色々調査を進め、南三陸で神社仏閣や色んな特殊建築を昔ながらの木組みで作る、宮大工の通称マイケルさんと出会いました。（この大工さんの紹介は改めて！）

完成イメージを伝え、どう作るかの細かい打ち合わせを経て、いよいよ搬入の日！バラバラの部品を2時間ほどで組み上げていくマイケルさんの姿は圧巻そのもの！ほぞ穴に木を差し込み、くさびを打ち込み固定する、全てがかっこいい✨ 踏板、柱、ステージ、そしてすべり面までが無垢の木で作られ、それが傾斜に応じて曲げられていることに驚愕しました。南三陸杉の手触りも最高！

滑り台がある空間は「ふぉれすと木っず宮城」と命名し、その中に滑り台以外にも社員手作りのものも含めて、木の遊具やおもちゃがたくさんあり、いつまでも帰りたくない（？）空間が出来上がりました。滑り台階段横の木の柵は単なる落下防止ではなく、山の木をイメージし、掴んで丘を登る設定です。また反対側の壁にも仕掛けがあって、磁石の虫たちをくっつけて遊べます。





お近くをお通りの際は、ぜひ滑りにお立ち寄りください！